

2023年度(令和5年度)
学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自:2023年(令和5年)4月1日
至:2024年(令和6年)3月31日

2024年(令和6年)6月



学校法人駿河台学園 駿台トラベルアンドホテル専門学校

学校関係者評価委員会

目次

1. 概要と実施状況について

1.1 目的と基本方針	1頁
1.2 学校関係者名簿	1頁
1.3 実施状況	2頁
1.4 評価方法	3頁

2. 報告書について

2.1 表の見方	5頁
----------	----

3. 評価結果報告書

3.1 総評	7頁
3.2 評価一覧(評価提言・今後の取組)	9頁

4. 学校関係者評価委員会議事録

4.1 第6回	10頁
---------	-----

1. 概要と実施状況について

1-1 目的と基本方針

学校関係者評価は、学校評価という協働作業を通じて、学校と学校の関係者（企業、協会、学校、OB等）がお互いの理解を深めることを目的とする。すなわち、学校評価の基本である学校の自己評価が、学校に関係する方々から違和感なく受け入れられ、自己評価の客観性と透明性を高めることにある。また、共に学生の将来を考え、それぞれの立場や視点から意見を出し合い、よりよい学校作りに寄与することを基本方針とする。

1-2 学校関係者名簿

学校関係者評価は、学識経験者、関係業界、高等学校、卒業生、保護者により構成された下記の委員に委嘱した。

氏名	属性	選定種別	所属
かとう かつし 加藤 克志	業界団体	校長推薦	公益社団法人 日本観光振興協会 総務・渉外部門 総務部長
そのべ かずき 園辺 一貴	企業	関連企業	株式会社エイチ・アイ・エス 法人営業本部 関東業務グループ統括部長
くぼ つよし 久保 剛	企業	業界関連	株式会社 KNT ビジネスクリエイト コンタクトセンター コールセンター副部長
かしわぎ とおる 柏木 徹	卒業生	卒業生	テック航空サービス株式会社 管理統括部長 総務・業務・人事部
つつい ようすけ 筒井 揚介	高校	高校	駿台甲府高等学校 副校長
えんどう ゆきこ 遠藤 由紀子	保護者	保護者	トラベル学科現在籍生の保護者

1-3 実施状況

第8回目は、自己評価の説明後、前回の学校関係者評価委員会の意見を踏まえ、更に検討すべき事案についてご討議いただきました。実施内容は下表のとおりです。

会議名	令和5年度 第8回学校関係者評価委員会
開催日時	令和5年8月31日(木) 13:30~15:30(120分)
場所	本校 本部校舎 306号教室
出席者	<p>① 企業・有識者委員： 加藤、園辺、久保、柏木、筒井以上5委員(敬称略、以下同)</p> <p>② 本校委員：塚原(校長)、田中(副校長)、納屋(教務部長代理)、大野(教務部次長)、南(教務部課長)、高島(教務部課長代理)、岡田(教務部課長補佐)、渡辺隆(教務部・就職指導担当)、竹谷(トラベル学科長)</p> <p>③ 事務局：司会…納屋 書記…大野 写真撮影…南</p>
欠席	遠藤委員・漆原委員・渡辺千委員
配布資料	<p><input type="checkbox"/>第8回学校関係者評価進行表、「職業実践専門課程とは」レジュメ</p> <p><input type="checkbox"/>前回配布済み…(令和5年度 学校自己評価報告書・学校関係者評価シート)</p>
議題等	<ol style="list-style-type: none"> 挨拶(塚原) 委員会出席に対するお礼を述べると共に、現在の学内状況について説明し、前回の会議を踏まえ、専門学校として社会要請に応えるための施策について議論いただきたい旨を依頼し、開会挨拶とした。 出席者紹介と委員会成立の宣言(納屋) (ア)事務局より有識者委員5名と本校委員9名を紹介した。 (イ)学校評価実施規定 第13条4に基づき過半数の出席が認められたため、委員会の開催を宣言した。 前回委員会での課題、および今後の改善方策を基に、各基準の評価を確認した(納屋)。 基準1 教育理念・目的・育成人材、基準2 学校運営、基準3 教育活動 基準4 学修成果、基準5 学生支援、基準6 教育環境 基準7 学生の募集と受入れ、基準8 財務、基準9 法令等の遵守 基準10 社会貢献・地域貢献、基準 学校自己評価中間報告に対し、評価シートに基づく討議。 各委員が事前記入した各基準の点検項目に対する評価シートを基に、委員から意見詳細を聞き取り、本校委員がそれに回答する形式で会議を進めた。 学校関係者評価委員会の次年度の予定。 評価シート提出期限は2023年12月10日とする。次回開催は2024年11月下旬予定。 解散

1-4 評価方法

1) 学内自己点検・自己評価の実施

学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って、令和5年度自己評価を実施した。自己評価の点検項目は10分類37項目である。『2023年度(令和5年度)学校自己評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント(適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0)を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員会に提出した。

2) 学内自己点検・自己評価の報告

学校関係者評価委員会では、学内委員から学校関係者に対し、『2023年度(令和5年度)学校自己評価報告書』を用いて、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況、および評価ポイント、根拠、課題、今後の改善方法について説明を行なった。今年度は、学校関係者評価委員の任期切替後の初回実施という事もあり、全ての評価項目の説明を行った。

学校自己評価報告書<記述例> 本表は以下のように構成しています。

基準1 教育理念・目的・育成人材像

点検項目【1-1~1-5】理念・目的・育成人材像

[チェック項目]

- 理念・目的・育成人材像は文章化するなど明確に定められているか
- 学校における職業教育の特色はあるか

➡ ①大項目

➡ ②中項目

➡ ③中項目における本校で
チェックをすべき項目。

本校は1980年(昭和55年)の学校創立以来、創設者の理念すなわち駿河台学園の理念である「愛情教育」を学校の理念としてきました。学問に対するひたむきさ〜

④中項目の点検項目に対する
本校の取り組み内容

項番	点検項目	適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1、無該当:0
【1-1】	理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1 0
【1-2】	学校における職業教育の特色はあるか	④ 3 2 1 0
【1-3】	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1 0
【1-4】	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1 0
【1-5】	各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1 0

➡ ⑤中項目について自己評価を行った結果に対する記載

1.課題

[]

2.今後の改善方策

[]

3.特記事項

[]

- 1.評価委員が挙げた課題
- 2.今後の改善方法
- 3.特に記載が必要な事項

3) 学校自己評価の評価

学校関係者は、本校の自己評価の説明を受け、内容と評価方法を理解した上で、本校が行った自己評価結果について「適切」「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 記入シート」のコメント欄に記載した。

本記入シートは、委員会終了後に学校関係者へ郵送、またはメールにて回収し、評価一覧にまとめた。

<記入例>

<h2 style="margin: 0;">学校関係者評価シート</h2> <p style="margin: 0;">自己評価の結果について、ご評価をお願いします。該当に○を記入ください。</p>	
評価者氏名	
本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標・計画 基準1 教育理念・目的・育成人材像 点検項目【1-1】 理念・目的・育成人材像	
評価結果	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 不適切
自由記述欄 (お気づきの点やご要望を記述してください)	
_____ _____ _____	

2. 報告書について

2.1 表の見方

自己評価：学内自己評価を取りまとめた結果。

(適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0)

第8回の委員会での学校関係者の提案、および評価シート記載内容。

基準 番号	項目名	点検項目		自己 評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
		番号	項目名			
1	教育理 念・目 的・育 成人 材像	【1-1】	理念・目的・育成人材像	4	適切に運営されている(100%)	①まだ方針が曖昧な部分が多く、今後の高校カリキュラムが具体化する中で、方向性がはっきり見えてきたから、学科長会議で話し合って結論を出していく。 ②留学生は、日本語能力の基礎力のアップがまず優先される為、現時点では、日本人だけ実施している。留学生には入学前の日本語補習を実施して
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-3】	未来構想	3	①社会を踏まえた学校の将来構想の今後の改善方針については、今まさに各企業がAI・ロボット等を活用し益々オートメーション化(自動化)している中だからこそ、より一層人と人のコミュニケーション力の強化が必要。次年度は評価4「適切」となるように将来構想を明確にして励んでほしい。(小林委員) ②一般教養を高める為のトレーニングであるステップトレーニングというのは留学生にも実施しているか。(矢澤委員)	
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運営されている(100%)	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運営されている(100%)	

学校関係者の提言に対する、本校の今後の取り組み内容（提言の丸付き数字に対応して記載）。

評価提言の ()内は、各提言に対する学校関係者の比率（評価シートより集計）。

3. 評価結果報告書

3-1 総評

本校は平成31年(2019年)3月5日に職業実践専門課程の認定を受けて以降、認定校としてふさわしい学校として評価をいただけるよう、また、委員の皆様のご意見を堅実に実現できるよう努力を続けてまいりました。

学校関係者評価委員の方々も5年目となり、本校の自己評価が、昨年度の指摘事項を反映されているかなど、メンバーから厳しいご意見があるかと心配しておりましたが、「外部委員の指摘内容を堅実に取り組んでいる」との評価をいただき安堵いたしました。今後も学校関係者評価委員会を実施することで、本校の教育内容の客観性や経営内容の透明性を高め、本校教職員一人ひとりが教育の質の向上に向けて取り組んでまいります。なお、この第8回委員会では、各委員から評価終了との判断を頂きましたので、本年度の委員会は今回で終了とし、次回を2024年度11月に開催することといたします。

新型コロナウイルスの感染拡大も収束を見せ、観光産業の回復が見られる一方、産業に携わる人材は回復に追いつくことができず不足をしております。その不足を補う人材はもちろん、コロナ禍を乗り越えたこれまでとは異なるアイデアや戦略を実践できる若い人材の確保が喫緊の課題となっております。

その為にも、業界の皆様からの新しい発想や助言をいただきながら、新しい観光サービス業に対応したカリキュラムを設定し、「新しい観光サービス業」で活躍できる人材育成に邁進する所存です。この取り組みを真摯に続けることを誓い、学校関係者評価委員会の評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
校長 塚原 慶一郎

3.2 評価一覧(評価提言・今後の取組み)

2023年度(令和5年度) 学校関係者評価報告書(本年度定めた重要項目、基準1~4)

項目	点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
	番号	項目名			
本年度定めた重点事項	【1】	重点5項目の適切な学校運営	4	適切に運用されている。 観光を学ぶ学生については、観光に対する意義や観光に対する重要性をしっかりと理解いただいて植え付けていただけると素晴らしい人材が確保できると思います。(加藤) やはり人対人の接客という点で、いわゆる業務知識や現地の情報、より大事な知識を持った学生の育成に努めていただけるとありがたいと思います。(久保)	観光業の重要性はもちろん、大人とのコミュニケーション能力を高め、就職活動に生かせるよう対面授業と課外活動を工夫しながら引き続き今後も継続する。

基準 番号	項目名	点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
		項番	項目名			
1	教育理念・目的・育人人材像	【1-1】	理念・目的・育人人材像	4	適切に運用されている。 いかにこの観光業界で働いている方をまたは働いていた方を確保していくか、優秀な人材を確保していくかというようなことが非常に重要になっていくと思います。(加藤)	「ホスピタリティ・マインド」を学ぶ・考える授業を今後も継続していく。
		【1-2】	職業教育の特色	4	適切に運用されている。 観光人材が非常に不足している中で、即戦力が非常に求められており、専門学校の役割が非常に重要になってくると思っておりますので、優秀な学生をぜひ観光業界の方に輩出していただけるよう引き続きご努力願います。(加藤)	
		【1-3】	社会ニーズを踏まえた将来構想	3	適切に運用されている。 SNSについては、旅行会社で公式なものを全社員が発信できるわけでもありませんので、SNSが、それともウェブのページの作り方・見せ方とかを勉強されてもいいのではないかと思います。(園部)	経済活動のデジタル化を意識して情報機器の活用は、パソコン技術やインターネット活用方法に重点をおいた教育への取り組み必要。
		【1-4】	学生・保護者等への周知	4	適切に運用されている。	
		【1-5】	業界ニーズに向けた方向性	4	適切に運用されている。 いわゆる業務知識や現地の情報、より大事な知識をしっかりと知識を身につけて、販売に役立てるような学生の育成に努めていただけるとありがたいと思います。(久保)	
2	学校運営	【2-2】	運営方針	4	適切に運用している。	
		【2-3】	事業計画	3	適切に運用されている。 ここ数年、業界の雇用が不安定だったこともありますが、昔と違って大学もすくなく増え、大学の中でも観光学科もあり、どういふ色付けをして学生募集をしていくのか(柏木)	学生募集が厳しい状況から、新卒の取組むには、収支を見ながらの収入に見合った事業運営を継続する。
		【2-4】	運営組織	4	適切に運用されている。	
		【2-5】	人事・給与制度	4	適切に運用されている。	定年退職者が増えることから新旧交代ができるよう、ベテランは若手に直接指導できる体制を整える。
		【2-6】	意思決定システム	4	適切に運用されている。	
		【2-7】	情報システム	3	適切に運用されている。	2022年度よりシステム改訂にお金をかけずに使いこなせるよう進めていく方針で運用している。
		【2-8】	目標の設定	4	適切に運用されている。	
3	教育活動	【3-9】	教育方法・評価等	4	適切に運用されている。 どうやって英語を勉強したらいいのか分かっていない生徒は個別に導いていかなければならないということで、専門学校では会話だとかの部分はかなり実践的にやられてると思いますので、興味を持つように個別に対応していくということになるのではないのでしょうか。(筒井)	就職における検定試験の取得の意義と就職後の意識づけをおこない、担任が学生の学習状況を把握し、目標数値を掲示する。
		【3-10】	成績評価・単位認定等	4	適切に運用されている。	
		【3-11】	資格・免許取得の指導体制	3	適切に運用されている。 この学生の時に、就職が決まったこの半年間くらいは、かなり余裕があると思いますので、その間にしっかりと資格を取得し、ステップアップとか自分磨きはできるうちにしておくべきかと思います。(久保) 実際に入社試験で資格を持ってるといってももちろん効いてきます。即戦力に近いようなものを持っているのかというのはありますが、最近は旅行取扱管理者資格を持っている学生の方が少ないので取っていると有利に考えるところがあります。(柏木)。	実践的な英語力の強化する。
		【3-12】	教員・教員組織	4	適切に運用されている。	
4	学修成果	【4-13】	就職率	4	適切に運用されている。 全体の就職率100%の結果となった。(高島) 頑張っておられると認識しています。業界が人手不足ということがありますが、御社の努力でしたら、このままの状態はずっと続いていくんだろうと思います。(園部)	
		【4-14】	資格・免許の取得率	3	適切に運用されている。 資格、免許の取得というところで、学生の方が内定がゴールと思いがちなので、いかにそれに対しての課題が解決できないことは、もっと就職することが基本スタートなので、そこに対してご自身の夢がどこにあるのかとか、必然的に海外支店で働きたいとかという夢があれば、おそらく普通に英語は喋れないと仕事できないというところに関連付けられるので、勉強すると思います。(園部)	一部の企業では、人事制度が変わり昇格するには資格取得が義務付けられてきている。現状の変化を伝え、キャリアガイダンスの時間を使って定期的に学生時代に資格取得する意味を就職している先輩を招き、厳しい現実を踏まえた体験談を伝える機会を設ける。
		【4-15】	卒業生の社会的評価	4	適切に運用されている。	

2023年度(令和5年度) 学校関係者評価報告書(基準5~10)

基準		点検項目		自己評価	学校関係者の評価提言	評価に対する今後の取組み
番号	項目名	項番	項目名			
5	学生支援	【5-16】	就職等進路	4	適切に運用されている。	
		【5-17】	中途退学への対応	4	適切に運用されている。	
		【5-18】	学生相談	4	適切に運用されている。	
		【5-19】	学生生活	4	適切に運用されている。	
		【5-20】	保護者との連携	4	適切に運用されている。	
		【5-21】	卒業生・社会人	3	適切に運用されている。	2023年秋に実施予定の同窓会懇親会実施に合わせ、在籍時の住所にはがきを発送し、連絡がつかない人を判別することから始めている。2023年は卒業生(直近15年分)にハガキを出す予定です。
6	教育環境	【6-22】	施設・設備等	4	適切に運用されている。	
		【6-23】	学外実習、インターンシップ等	4	適切に運用されている。	
		【6-24】	防災・安全管理	3	適切に運用されている。 防災のところで、実はこの7月に地元の商店街の方と盆踊り大会に留学生がボランティアで参加した際、会長と話している中で、巣鴨は年寄りが多く商店街の会員もお年寄りばかりなので、いざ大規模災害あった時に学校の皆さんの手をお借りできないか、そういったところで今後も提携できないかというお話がありましたので、私共も学校として教室もありますし人手もありますので、そういったところで貢献できないかという風に今考えております。(渡辺隆)	新型コロナウイルス感染症の収束し、安全が確保できた時には、隣接するマンション施設管理組合と連携し、防災訓練に教職員が参加することを義務づけ
7	学生の募集と受け入れ	【7-25】	学生募集活動	3	適切に運用されている。	アンケートを実施し、専門学校に通う日本人と留学生のSNS利用実態を把握し、そのデータを基に、学校の魅力を十分に伝えるコンテンツを提供できる仕組みを設定する。
		【7-26】	入学選考	4	適切に運用されている。	
		【7-27】	学納金	4	適切に運用されている。	
8	財務	【8-28】	財務基盤	3	適切に運用されている。	徐々に感染が収束し、同時に観光業界の回復が見込まれる為、財務基盤の安定化=入学者の増加を回れるような様々な募集への方策を展開していく。
		【8-29】	予算・収支計画	4	適切に運用されている。	
		【8-30】	監査	4	適切に運用されている。	
		【8-31】	財務情報の公開	4	適切に運用されている。	
9	法令等の遵守	【9-32】	関係法令、設置基準等の遵守	4	適切に運用されている。	
		【9-33】	個人情報保護	4	適切に運用されている。	
		【9-34】	学校評価	4	適切に運用されている。	
		【9-35】	教育情報の公開	4	適切に運用されている。	
10	社会貢献・地域貢献	【10-36-1】	社会貢献・地域貢献	3	適切に運用されている。	2023年度に向けて、学校の教育資源や施設を活用した社会貢献活動として「大人の教養講座」を企画し、実施の予定。
		【10-36-2】	国際交流	4	適切に運用されている。 12月5日文京区立小日向台町小学校で小学生に対し、国際理解の授業の一環として本校の留学生と交流会を実施した。(岡田)	
		【10-37-1】	ボランティア活動	3	適切に運用されている。 10月下旬に豊島区のNPO法人の依頼により、乳幼児親子に対するハロウィン事業のボランティア活動をおこなった。(渡辺)	2023年度に向けて、(株)JTBの提案により、2023年の4月と5月にG7広島サミットにおいて、要人接遇対応の研修を行った上で、接遇業務の補助への参加を予定しています。更に、2023年7月下旬に地域貢献活動として、地元巣鴨商店街のお祭りに本校留学生がボランティアとして協力する予定。

総合評価【自己評価の確認および次年度重点項目の設定】

本校の自己評価については、学校関係者から全て『適切に運用されている』との評価を頂きました。学校関係者評価委員の方々は学校・企業・保護者等の立場から、本校が気付かない様々なご意見を、専門分野における経験と見識を以てご指摘くださいました。

質疑応答の中では、本校の取り組みの苦勞をご理解のうえ、各学校関係者の組織におけるご苦勞もお伝えいただき、情報を共有することが出来ました。

今後は、学校関係者からご指摘を受けた部分、特に評価ポイントが低い項目について、内容を精査し、次年度の教育重点項目として自己点検を実施し、改善に努めてまいります。

4. 学校関係者評価委員会議事録

4-1 2023年度(令和5年度)第8回学校関係者評価委員会 議事録

基準Ⅰ 教育理念・目的・育成人材:将来構想(塚原・田中)

※感染収束後の観光業界の変化を踏まえた人材育成への取り組み⇒企業の変化

<p>加藤委員</p>	<p>塚原委員より基準Ⅰの教育理念、目的育成人材度について説明を行った。</p> <p>これでよろしいのかなと思います。今年の5月にコロナの分類が変わり、訪日外国人の水際対策も全て緩和され2020年から観光が一気に回復してきている状況です。ただ、この3年間、観光が全く止まっていたということで観光業界に人がなかなか戻ってきてくれていない。特に宿泊業界、旅館業界においては、今深刻な人手不足に悩まされてるというようなお話も伺っています。いかにこの観光業界で働いている方をまたは働いていた方を確保していくか、優秀な人材を確保していくかというようなことが非常に重要になっていくと思います。観光については国の主要な産業だと言われておりますので、観光を学ぶ学生については、観光に対する意義や観光に対する重要性をしっかりと理解いただいて植え付けていただけると素晴らしい人材が確保できると思います。観光人材が非常に不足している中で、即戦力が非常に求められており、専門学校の役割が非常に重要になってくると思っておりますので、優秀な学生をぜひ観光業界の方に排出していただけるよう引き続きご努力願いたい。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございます。もう一人いかがでしょうか。</p>
<p>久保委員</p>	<p>今は店舗の販売というところで担当させていただいております。その中で、ながらく会社はウェブへ舵切し、ウェブ販売への動きを置いているという方向性でしたが、今は店頭販売というところで再度見直し店頭販売の重要性というところに再度脚光が出ているところです。店頭での海外のお客様の申し込みというのは回復傾向にあって、やはり人対人の接客という点で、いわゆる業務知識や現地の情報、より大事な知識を持ったスタッフを育成するというのを今してしまして、勉強会や説明会などを多数開催し、今一度スタッフの知識向上に向けて、しっかりと知識を身につけて、販売に役立てるような学生の育成に努めていただけるとありがたいと思います。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございます。園辺様いかがでしょうか。</p>
<p>園辺委員</p>	<p>採用面接をしている中で、重要視しているのは再現性というテーマがあります。今までどういうことをやってきたか、それが実際会社に入ったら再現できるのかどうかみたいな質問を投げかけてますので。専門学校での教育というところでどういうことを教えられ、どういう経験から何を学び、それをどういう風に活かしたいかような質問をしていくと、作ったエピソードだと一致しないずれが生じてしまうので、一貫性というか、そのような教育を継続していただきたい。店頭販売において</p>

司会	<p>はホスピタリティーマインドというか、簡単な旅行は本当にウェブを使いに行くと思いますが、ウェブだけで終わることはありませんので、いろんなシーンで、こういう人だったらこういう商品をお勧めする、なぜそれをお勧めするのかみたいな、シミュレーションではないですが、そういうようなところからホスピタリティーマインドを醸成していただいてもいいのではないかと思います。SNSについては、旅行会社で公式なものを全社員が発信できるわけでもありませんので、SNSか、それともウェブのページの作り方・見せ方とかを勉強されてもいいのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございました。基準1については終わらせていただきます。</p>
----	---

基準2 学校運営(納屋・渡辺千)

※収支に見合ったメリハリをつけた事業計画の見直し

※学校システムの改善と学校の仕組みの改善の取捨選択

柏木委員	<p>納屋委員より基準の2、学校運営について説明が行われた。</p> <p>ここ数年、業界の雇用が不安定だったこともありますが、昔と違って大学もすごく増え、大学の中でも観光学科もあり、どういう色付けをして学生募集をしていくのかがあります。また最近旅行業を目指す人自体が少なくなっているのではないかと思います。20年前、30年前の専門学校だと1学年で20クラスぐらいあったが、今はもう1クラスで、数人というお話も伺っております。学生が来ないとこのところもあるでしょうし、その辺りに、具体的にどんな形で募集を進めていくのかとかをお聞かせいただければと思います。</p>
司会	<p>それについてはまた後で、似た案件、基準がございますのでその辺りで改めて話をさせていただきます予定でございます。</p>
塚原委員	<p>ただ今お話がありました大学に観光関係の学部などかなりあることは確かです。大学の方も募集が厳しい中で観光産業の部分を作っていけば学生も増えてくるだろうというところで、今までは専門学校が中心で動いてきたものが大学との競争になっているところがあるのと、大学も、研究・学術という分野の方向性だけでなく、ある意味で専門学校化された大学が多くできてきてるところがあり、募集が非常に厳しくなっている。それまでは学生が多く広がっていたのが、コロナの影響で小さくなったところで、奪い合いをしている部分があり、今後どう大学との差別化をしていくかが課題になっております。</p>
司会	<p>基準2については委員の皆様からご質問がないので次に移ります。</p>

基準3 教育活動(大野・南・竹谷)

※資格取得へのクラス格差の是正(観光業界での資格取得の評価基準の変化)

	<p>基準3教育活動について、教育活動部分を大野委員から、資格・免許取得の指導体制について南委員より報告を行った。</p>
司会	<p>高校教育の現場でのその英語資格取得は、少し高等学校と専門学校は違うかと思いますが、英語について筒井先生ご意見をお願いします。</p>
筒井委員	<p>本校の方でも、英検を1年生で準2級、高校2年または高校卒業までに2級取得を掲げていますけれども、そもそも英語をやることにまだモチベーションがないのが現状で、貴校のお悩みは本当にいたいことわかります。どうやって本人たちのモチベーションを上げていこうかということで、本校でも、例えば1次試験が合格したら、2次試験は個別に指導をしたり、あるいは駿台グループの他のところのシステム使って勉強できることを話をしていますけれども、モチベーションがある生徒は高校2年生ぐらいで準1級取るすごい生徒はいますが、まだ1件も取っていない生徒は、どうやって英語を勉強したらいいのか分かっていないということもあります。そのような場合は個別に導いていかなければならないというところで、専門学校では会話だとかの部分はかなり実践的にやられてると思いますので、興味を持つように個別に対応していくということになるのではないのでしょうか。</p>
司会	<p>ありがとうございます。</p>
塚原委員	<p>去年、久保様の会社で資格が昇進の条件というお話があったと思いますがいかがでしょうか。</p>
久保委員	<p>TOEICだったり実用英語検定だったりというのは、会社に入社してから、3年目、4年目くらいでもう次のステップに上がるための必須項目になっています。全ての企業ではないでしょうが、一部の企業はステップアップするために資格が必須で、社会人になると資格や仕事のための勉強、ましてや年齢が上がってくると同じ時間勉強しても度合いが違ってくると思いますので、本当にこの学生の時に、就職が決まったこの半年間ぐらいは、かなり余裕があると思いますので、その間にしっかり資格を取得し、今の学生にステップアップとか自分磨きみたいなこと言ってもなかなか響かないとは思いますが、将来働く、お金を稼ぐという中で、稼ぐ金額を1円でも上げるためには、こういう資格を持っていないと、要はお給料が上がっていかないんだということを説得するための理由の1つになるのではないかと思います。お金が全てではないんですが、将来子供と家庭を持つとなった時にどうしても必要なものだと思いますので、そういう努力はできるうちにしておくべきかと思います。</p>
塚原委員	<p>科目は語学が必要でしょうか。</p>
久保委員	<p>若い社員たちはそうです。旅行業務取扱管理者ももちろんそうですし、実用英語検定かTOEICは必須項目であがっています。</p>
渡辺委員	

久保委員	それ以外はいかがでしょうか。
渡辺委員	IT パスポート試験とビジネス会計検定 2 級取得を会社で進められています。管理職クラスは経営に関わるということで、ビジネス会計 2 級取得は、経理出身の方とか、経営幹部の方から普段数値を見られてる方々は少し勉強すれば理解はされるかもしれませんが、販売現場では数字に弱いので勉強が必要になります。
久保委員	専門学校において簡単な簿記の知識は必要でしょうか。
渡辺委員	ビジネス会計検定はおそらく表裏一体だと思うのですが、この時期の資格取得、知識があるというのはそのままビジネス会計検定にも発展していくと思いますので、簿記の資格を置かれるのは、少なくとも私ども会社では持っている意味はありません。
久保委員	ホスピタリティ教育に一生懸命なため、売り上げとかの意識が専門学生に足りないと言われていますがいかがでしょうか。
司会	20 歳そこそこで入社してくるのに経営がどうなるかというのはシビアな話だとは思いますが、中には経理の仕事をするスタッフもいるでしょうし、30 歳前後になると、自分の視点で数字を見るようになってくると思います。本当に時間があるうちにしっかり勉強して、そういう資格を持っておく、知識を蓄えておくというのは今しかできないと思います。
	ありがとうございました。基準 3 についてはこれで終了いたします。

基準 4 学修成果(南、高島)

※資格取得率への取り組みと課題 ※SNS のカリキュラム活用

司会	基準 4 の就職について高島委員より、学習成果について南委員より説明を行った。
柏木委員	柏木様、就職と資格ついていかがですか。
塚原委員	実際に入社試験で資格を持っているのはもちろん効いてきます。即戦力に近いようなものを持っているのかというのはありますが、最近旅行取扱管理者資格を持っている学生の方が少ないので取っていると有利に考えるところがあります。
柏木委員	語学力はそんなに必要ではないでしょうか。
司会	正直そんなに期待してないというか、英語は皆一斉に習って覚えられるというものではないので、どちらかという、好きな方はすごく積極的に勉強すると思いますので、逆に旅行に対してどれだけ旅行の資格を持っているかというのは見ます。

<p>加藤委員</p>	<p>加藤委員はいかがでしょうか。</p> <p>会社の中で資格を取得しなければならないみたいですので、資格としては非常に重要になると思いますが、資格取得だけではなく、我々観光業界で働く人間にとって、幅広く観光に対する知識を高めてほしいという希望はあります。特に今の若い子たちがネットで情報収集されてるのかもしれませんが、新入社員によく言うのは、まずはしっかりニュースを見てください、新聞を見てください、特にその中で、観光に関する情報についてしっかり自分の知識として入れてくださいという指導をしています。資格の取得も大変重要と思いますが、幅広い観光に対する知識をつけていくというような教育をなさった方がよろしいかと思います。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございます。本校の就職率についていかがでしょうか。</p>
<p>園辺委員</p>	<p>頑張っておられると認識しています。業界が人手不足ということがありますが、御社の努力でしたら、このままの状態はずっと続いていくんだろーと思います。本当に人が足りないので、多少昔の基準よりは少し目線を落としてでも人を取らないと回らないという状況が考えられるのと、観光業界全体が、もちろん企業努力としては自動化とかロボット使ったりとか導入したりしてますが、基準3・4でも、資格、免許の取得というところで、学生の方が内定がゴールと思い込んでるのではないかといいところがあり、それに対しての課題が解決できないことは、もっと就職することが基本スタートなので、そこに対してご自身の夢がどこにあるのかとか、必然的に海外支店で働きたいとかという夢があれば、おそらく普通に英語は喋れないと仕事できないところに関連付けられるので、勉強すると思います。例えば決まった段階で、企業と人事の人間と、先生方と学生さんと3人で面談してもよいのかもしれませんが、緩んだタイミングでOBを連れてきて、やはり勉強しないと、特にホテルとかは、観光もインバウンドとかこれから稼がないといけません。今のZ世代にとって、自己実現の欲求というか、内発的動機付けでやらないと、なかなか目の前にぶら下げても動かないので、自分として将来どうありたいのかとか、そういうことを意識してもらおう。それがあつたら出世するお金が増えるのではなくて、自分としては10年後の自分はどういう風になりたいのかとか、そこがホテルとかでも、もっともっと上を目指したいのであれば、日本語だけでいいのかなど、気づきを与えて、今この時期が一番勉強できる時間なので、就職したらまったく時間がないということもOBに喋ってもらったらとても生々しい話が聞けると思います。本当に1年目とか全く余裕がないですし、2年目とかも人手不足なので残業とかがあり、なかなか勉強する時間もないので、課題が解決できないのはどこかに問題があるので、やり方を変えてPDCA回していかないと、なかなか解決できないのではないかと思います。色々なことを、先生方でアイデア出し合い1個ずつしてみるとか、私たちも問題があつた時にはやり方を変えてみる、環境を変えてみる、場所を変えてみる、やり方を変えていかないとまいこといかないとというのが続いているということは、そこに対して別のアプローチをしてみてもいいのではないかと思います。英語ということになると、もう少し、内定が出た後に膝をつき合わせて1対1で話し合い、本当に自分自身の将来像は何を描かれてるのかみたいなことをきめ細</p>
<p>司会</p>	

渡辺委員	<p>かくやられるとよいのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
園辺委員	<p>質問よろしいですか。今、観光業全体では、旅行会社において一部人手不足というものもあるかと思いますが、実際それによって、基準を下げてでも採用したいとか、それとも基準は変えないのか、その辺はいかがでしょうか。</p>
渡辺委員	<p>現実には本当に人がいないので基準は下げています。そもそも人気業界ではなくなったという経緯で採用活動しないと、昔みたいに放っておいても人が来る、何万人エントリーとかという成功体験を持っていたらおそらく失敗すると思います。大学の観光学科の人がたくさん受けにくるケースが多いですけれども、昔はもっといろいろな学部から来ましたが少なくなったという印象はあります。</p>
久保委員	<p>久保委員はいかがですか。</p>
渡辺委員	<p>現在人事に携わってないので、なんとも言えませんが、今年も採用面接とか、先月も社内で学生さんたちが来てたのを見かけてますので、採用は実際始まっています。昨年度までの状況とは違い、やはり需要が回復してきてますので、本当に採用できる余裕がないというところから採用を始めないとまずいというように変わってますので、人の採用は今年もしています。ただ、その基準を落としてるかどうかまでは判断できないのですが、採用されてくる社員を見ると、やはり大学生というところが基本に置かれてるのかと感じます。</p>
久保委員	<p>なかなか専門学校生は厳しそうですね。</p>
渡辺委員	<p>別に門戸を開いてないわけではないんですが、結果としてやはり大学生が中心になってしまっているんで、どうしても2歳差。その2年間でできる勉強の差というのももちろんあるでしょうし、それを補って余りある魅力ある学生さんであれば当然採用には引っかかってくるのかなとは思いますが。</p>
柏木委員	<p>柏木委員の会社は今後採用にあたって、その辺の基準はいかがでしょうか。</p>
渡辺委員 司会	<p>基準を下げてるというよりは、今はどちらかというと、コロナで20代がごそっと退職、離職してしまい、昔でしたら他の旅行会社に転職するというケースがあったかと思いますが、今はもう業界に残らなくなっています。例えば、今の状況で言うと、ロールモデルになるようなちょうどよい中間の人が、若い人がいなくて、おじさんおばさんばかりだから、その辺りでまず新卒をどうしようかというのは少し悩んでるところはあります。本当に1回辞職された方をもう1回集めて各企業に紹介するみたいなシステムがあったらありがたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>

	<p>それでは、基準の4番はこのぐらいにさせていただきます、基準の5番、学生支援について進みます。</p>
--	---

基準5 学生支援(南・高島)

※卒業生とのコンタクト(DM・SNS)同窓会パーティー連絡、

※中退者と保護者への対応

	<p>基準の5番、学生支援について高島委員より説明を行った。</p>
司会	<p>学生の支援という点において高等学校様のご意見を頂戴したいと思います。筒井先生はいいかがでしょうか。</p>
筒井委員	<p>今あるのはやはり修学資金です。高校では入学後すぐに修学資金の案内をしました。それから卒業する時に、日本学生支援機構は4月5月ぐらいで生徒たちに予約奨学金の申し込みがることを伝えるので、そのためのガイダンスを開いたりしています。進学に備えて、保護者の関心も高いです。進学にはお金がかかりますので、日本学生支援機構も講師を派遣して下さるので、専門の方にしていただいたりしています。そのようなところが充実をしていけると、なおのこと募集によい影響となるのではないかと思います。</p>
司会	<p>ありがとうございます。それでは基準6に移ります。</p>

基準6 教育環境(渡辺隆、漆原) ※防災訓練の実施、施設・設備管理状況報告

	<p>基準6について大野・渡辺委員より施設設備・消防訓練について説明を行った。</p>
渡辺委員	<p>防災のところで、実はこの7月に地元の商店街の方と盆踊り大会に留学生がボランティアで参加した際、会長と話をしている中で、巣鴨は年寄りが多く商店街の会員もお年寄りばかりなので、いざ大規模災害あった時に学校の皆さんの手をお借りできないか、そういったところで今後も提携できないかというお話がありましたので、私共も学校として教室もありますし人手もありますので、そういったところで貢献できないかという風に今考えております。</p>
司会	<p>基準6については特にご意見がありませんでしたのでこれで終了とさせていただきます。</p>

基準7 学生の募集と受入れ(納屋・高島)

※学生募集活動におけるSNSのより効果的な活用方法

	<p>基準7の募集活動について納屋委員と高島委員から説明を行った。</p>
司会	<p>企業としてかなり高卒人材を採用にされているのではないかと個人的に思っておりますが、それについてももしお話いただける内容があれば、業界違いということもあ</p>

<p>園辺委員</p>	<p>るかもしれませんが、いかがでしょうか。</p> <p>高卒生についてはコロナ前は採用していました。高校生の採用は難しいです。高校では1社しか受けてはいけないというのがあります。多分これから高校生を採用に行くというか、2極化になると思いますので、専門学校の立ち位置は難しくなる部分もあるのではないかと思います。高卒生は1人前ではないので、みんなで育てていこうという感じです。未成年なので、人事として酒の席には連れて行ってはいけないところとか。何かあったらトラブルになると怖いのですが、採用側としては、取らざるを得ないという状況です。高卒生は定着率が高く、なかなか離職しないというのがあります。採用手法がもっと簡単になれば、さらに積極的に採用する企業が増えていくのではないかと思います、手間かかりますので難しいところもあります。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございます。竹谷先生いかがですか。</p>
<p>竹谷委員</p>	<p>高卒の離職率が低いというのはどういった理由で定着すると思われますか。</p>
<p>園辺委員</p>	<p>多分情報があまりインプットされていないので、他の社会、他の周りが多分インプットはないというか、入ったら自分の仕事を一生懸命覚えるのに精一杯なのと、みんな高校生、高卒なんで手厚く教えています。皆で育てないと一人前にならないし、早く一人前になってもらいたいという思いもあります。大学だったら22歳で入ってくるので、ある程度自分でやってくださいというところがありますが、高校だったらおそらく全然わかっていないので1から教えないといけないというのがあります。専門学校はどちらかというとな大学よりです。高卒はそんなに周りが見えていないのかもしれませんが、もっと余裕ができてくればまた考えてやめる人もいるのかと思います。</p>
<p>竹谷委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>司会</p>	<p>その他はよろしいでしょうか。それでは基準8とに移ります。</p>

基準8 財務(大野)※経費節減状況報告

基準9 法令等の遵守(大野)※個人情報管理、教育情報のシラバスの公開

<p>司会</p>	<p>基準の8、9が内容的に近しいため大野委員から一緒に説明を行った。</p> <p>特に意見がありませんでしたので次の基準に移ります。</p>
-----------	--

基準10 国際交流。社会貢献・地域貢献、国際交流(渡辺隆、岡田・塚原)

※ボランティア活動 以上

	<p>基準10について岡田委員と渡辺委員から説明を行った。</p>
--	-----------------------------------

<p>司会 塚原委員</p>	<p>委員の皆様からご意見などなければこれでさせていただきます。</p> <p>非常に様々なテーマに関しましてご意見いただきありがとうございました。 これで学校関係者評価委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>
--------------------	---

以上